

# ヒグマ管理の研究を通じた生物多様性保全と地域振興に貢献する人材を求めています

背景

- ・ヒグマとのあつれきが深刻化
  - あつれき: 人身事故、市街地侵入、農作物被害
  - 市街地への侵入などあつれき増加が社会問題化
    - ※道内の過去最多の人身被害14名 (R3、R7は市街地でも発生)
    - 過去最多の捕獲2,000頭超 (R7:10年前の約3倍)
    - 過去最多の農業被害額3億5千万円超 (R6:10年前の約3倍)
    - ※R7より緊急銃猟制度がスタート、札幌市で適用
- ・変化する環境条件下での影響把握が不足

## 道のヒグマ管理計画

- 2つの取組を進め、  
適正な保護管理を推進
- ①あつれき軽減
  - ②健全な地域個体群の存続

- 全道各地での技術支援が急増
- ・道のヒグマ対策調査技術支援 (現地調査、遺伝子試料分析)
  - ・普及啓発活動 (生態や対策の説明)
  - ・マスコミ取材対応

## 変化する社会や環境における影響把握と対策が課題！

研究の展開

継続

### 現状把握と防除手法等の開発

- ・地域別の生息数・動向把握、被害防除手法の開発
- ヘア・トラップ調査、捕獲個体試料分析、痕跡調査、地域別個体群動態解析、問題個体数推定、被害状況調査、問題個体の遺伝子分析(個体識別) 問題個体の安定同位体分析(食性履歴)

新規

### 都市部への出没要因解明

- ・出没環境の特徴や問題個体の発生要因を解析

+

### 人口減少時代に適した鳥獣被害防除法の提案

- ・省力的、効率的な被害把握や被害防除手法の開発

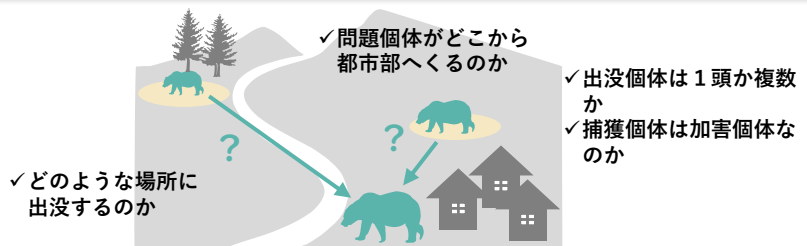
強化

### 被害対策への貢献

- ・遺伝子分析の精度の向上と迅速化



- ・北海道/鳥獣管理法による個体群管理
- ・市町村/特措法による捕獲と被害防除 緊急銃猟制度
- ・警察/ライフルによる捕獲



求める人材

## 野生動物管理の研究と技術支援対応に当たる人材

### 主な職務

- ヒグマ管理を通じた生物多様性保全と地域の安全・安心に貢献する研究を主導
- ・生息数動向の把握、被害防除に関する技術の開発と実装
  - ・行政職員等を対象とした管理に係る技術支援

### 関連する学術分野

- 野生動物管理学
- 社会科学・生態系管理学
- 分子生物学・保全生態学 など

# 北海道の多様な植生(湿原、海浜草原、高山草原、耕作放棄地など)を対象とした保全生態学の研究を担う人材を求めています

背景

## 気候変動

気候変動により生態系劣化が進行

高山・湿原植生の劣化、生物分布域の変化、生物間相互作用のミスマッチなど

## ネイチャーポジティブ

2030年ミッション( COP15, 生物多様性国家戦略)

自然を回復軌道に乗せるため、生物多様性の損失を止め反転させる

気候変動が進行する中で、ネイチャーポジティブを達成するためには、**現実的かつ効果的な生態系保全策が必要!**

## 生態系の順応的管理

効果の検証

生態系の回復・再生手法

モニタリング

・影響把握  
・将来予測

手法の見直し

研究の展開

## 多様な自然生態系の再生・維持による北海道の生物多様性の保全

継続

自然生態系の保全・再生

湿原、海浜、高山など

農村生態系の保全・管理

耕作放棄地、植生遷移、生物多様性評価など

希少種の保全

モニタリング、生態調査、移植試験、遺伝解析など

植物の基礎生態の解明

繁殖生態、生物間相互作用、個体群維持機構など

+

強化

気候変動の影響評価

モニタリング体制の構築

生態系サービスの評価

共生ネットワークの解明

など

科学的根拠に基づく生態系の順応的管理

(参照: [https://www.hro.or.jp/industrial/research/eeg/organization/nature\\_conservation\\_division.html](https://www.hro.or.jp/industrial/research/eeg/organization/nature_conservation_division.html))

求める人材

- ・ 多様な植生を対象として、個々の専門性に基づき**保全生態学の研究を推進**できる人材
- ・ 高い**野外調査の能力**を持ち、**取得データの解析**を適切にできる人材
- ・ 研究成果に基づき、北海道の**生物多様性保全に対する提言**ができる人材

## 主な職務

北海道の**希少種、湿原、海浜草原、高山草原、耕作放棄地**などを対象とした、**保全生態学の研究と保全事業への活用**

## 釣賀 一二三（エネルギー・環境・地質研究所 自然環境部 生態系管理グループ）



出身：京都府

経歴：1995 北海道大学大学院獣医学院博士課程修了  
1998 北海道環境科学研究センター就職  
(現道総研エネ環地研)

志望理由：ヒグマの保護管理に関わる研究に従事したい

### 主な業務内容

- ・道や道内自治体の管理計画（方針）策定委員
- ・あつれき指標の確立に関する研究
- ・ヘア・トラップ調査による生息密度推定
- ・人身被害発生時の現地調査や技術的助言
- ・行政職員等を対象としたヒグマ研修の講師

### ヒグマチームのその他の研究例

- ・捕獲個体の分析による生息状況モニタリング
- ・水晶体の安定同位体比分析による食性解析
- ・ドローンを用いた農作物被害状況調査

●かかわってきた調査など



クマ対策研修（知床）

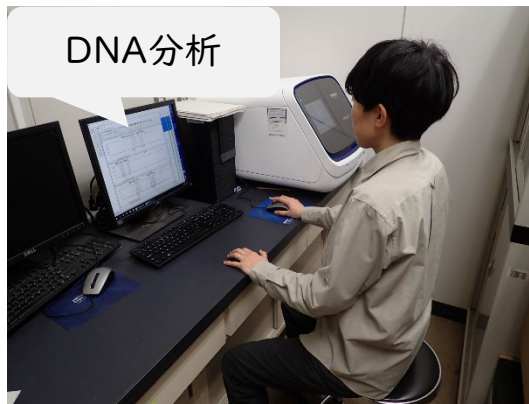


電気柵の設置試験



テレメトリー調査

# 各専門分野の研究者から：職場紹介（エネルギー・環境\_C：野生動物管理）



**内勤**  
**外勤**

出勤 メール確認	分析・解析	論文読む・書く	昼食	チームMTG	分析・解析	退勤
8:15	8:30	10:00	12:00	13:00	14:00	17:00
8:45	9:30	→	12:00	13:00	→	17:30
出勤 調査準備	移動		昼食	現地調査		宿着

